

I T 講師養成プログラム
理解度確認テスト

2020年 9月 パイロット講座版

■第1回

講座1 研修サービスとは 第1章～第3章

次の文章を読み、内容が正しい場合には○、誤っている場合には×を選んでください。(正誤問題)

設問	問題文	正解
1	日本型雇用を前提とした企業のキャリアパスは、新卒一括採用、年功序列、終身雇用をベースとした画一的なものである	○
2	研修サービスの役割は、自社の企業理念や職業倫理などを備えた「社員を養成すること」と「会社の業務を遂行するための教育研修を行うこと」、「社員のリカレント教育」であり、個人の能力開発ではなく、企業のニーズのみに応えるものである。	×
3	研修サービスは、大別して、対面研修（集合型・個別型）、eラーニングによる研修（同期型・非同期型）、混合学習に分類できる。	○
4	研修サービスにおける「研修の実施」は、受講者への対応を行う講師の役割のみで成り立っている。	×
5	研修サービススキームとは、研修サービスを構成する要素を ISO 29993:2017 に沿って整理したものである。	○

次の文章を読み、設問に答えてください。(四者択一問題)

設問	問題文（選択肢）	正解
6	「研修の効用」として正しくないものを1つ選べ。 1 新しい知識スキルの習得。 2 すでに習得している知識やスキルの確認・整理。 3 実務に直結しないノウハウを習得。 4 研修結果を個人の能力証明として活用。	3
7	コースと講座の関係に関する次の説明のうち、正しいものを1つ選べ。 1 コースは、教育目標達成のために考えられる連続的な指導計画である。 2 カリキュラムは、特定の科目に対して行う連続的な講座の集まりである。 3 講座は、必要とされる知識・スキルの習得を支援する研修サービスの構成単位である。 4 コースマップとは、コースが開発されるまでのフローを視覚化したものである。	3
8	研修サービスの提供形態として、正しくないものを1つ選べ。 1 対面研修として、同期型がある。 2 eラーニングによる研修として、非同期型がある。 3 対面研修として、集合型がある。 4 混合研修は、対面研修とeラーニングによる研修を組み合わせたものである。	1
9	研修サービスにおける「講師の役割」として、正しくないものを1つ選べ。 1 受講者プロフィールの確認や学習集団の把握など、受講者への対応。 2 講義・実習などの実施。 3 受講者管理や出欠管理などの教室運営。 4 募集活動などの広報・営業活動。	4
10	「ISO 29993:2017」の説明として、正しくないものを1つ選べ。 1 学習サービス規格「ISO 29990:2010」の後継規格である。 2 公式教育外の学習サービスに対するサービス要求事項を定めた国際規格である。 3 ニーズ分析、設計、アセスメント及び評価を含む、研修サービスなど学習サービスのプロセスを反映している。 4 主に研修サービスなど学習サービスを提供する事業者のマネジメントについて、整理されている。	4

■第2回

講座1 研修サービスとは 第4章 1節～3節

次の文章を読み、内容が正しい場合には○、誤っている場合には×を選んでください。(正誤問題)

設問	問題文	正解
1	カリキュラム設計・開発担当の役割は「研修サービスの設計」である。	○
2	コースの企画と講座設計を行うために、まず、講座評価分析を行う。	×
3	講座設計の際は、受講者のレベル設定をした上で内容を整理する。また、工程管理をする上で、研修設計の流れをADDIEモデルに当てはめて考えてもよい。	○
4	教材作成の際は、研修サービス仕様書やコマシラバスなどの詳細設計書を目次として活用する。	○
5	教材作成時に遵守すべき事項は、著作権保護だけである。	×

次の文章を読み、設問に答えてください。(四者択一問題)

設問	問題文 (選択肢)	正解
6	カリキュラム設計・開発として、正しくないものを1つ選べ。 1 ファシリティー作成 2 シラバス作成 3 評価基準作成 4 指導者育成	1
7	カリキュラム設計・開発担当の役割における「評価結果の分析」に関する次の説明のうち、正しくないものを1つ選べ。 1 アセスメントの分析を行う際には収集したデータを分析可能な形に整理する。 2 目的に応じて科学的な理論や統計方法を選択し、データの分析を行う。 3 分析した結果をもとに、主として最終的に講義・実習を担う講師の視点から検討を行う。 4 検討結果をもとに課題や問題点の抽出、効果や利点等について報告書にまとめる。	3
8	研修設計のADDIEモデルにおいて、「課題分析図作成」はどの工程に当てはまるか、正しいものを1つ選べ。 1 分析 (Analysis) 2 設計 (Design) 3 開発 (Development) 4 評価 (Evaluation)	1
9	シラバスに関する説明として、正しくないものを1つ選べ。 1 履修目標や成績評価の方法が記述されている。 2 教材のゴールとして設定した学習目標を習得するために必要な要素とその関係を図示したものである。 3 履修条件及び関連科目などが示された研修の詳細な計画である。 4 研修サービス事業者と受講者との間に結ばれる契約を意味する。	2
10	視覚教材作成のポイントについて、正しくないものを1つ選べ。 1 視覚に訴える。 2 背景に色をつける。 3 視覚教材の上部に内容を記載する。 4 縦書きと横書きを混在させ変化をつける。	4

■第3回

講座1 研修サービスとは 第4章 4節～5節

次の文章を読み、内容が正しい場合には○、誤っている場合には×を選んでください。(正誤問題)

設問	問題文	正解
1	カリキュラム設計・開発担当者は講座実施前に、今回の講座の留意点や教授法について、講師に指示・伝達する必要がある。	○
2	研修事業者は研修を実施する上で、受講者の多様性を理解しながらも、学習者に対する特別な配慮をすべきではない。	×
3	カリキュラム設計・開発担当が設計した評価手順・方法に従って実施した評価結果を、講師はカリキュラム設計・開発担当にフィードバックする。	○
4	「誰かに何かを教える行為のためのシステム設計」という意味で、研修の設計開発を効率的に進めるマネジメントシステムをADDIEモデルという。	×
5	設計・開発を行う担当者は、ISDを使うことによる「研修(教育)を行う側の利点」と「研修(教育)を受ける側(受講者)の利点」を、それぞれ理解してISDを活用すると良い。	○

次の文章を読み、設問に答えてください。(四者択一問題)

設問	問題文 (選択肢)	正解
6	研修の形態や目的に応じた「教授法」に関する次の説明のうち、正しくないものを1つ選べ。 1 決定された計画に沿った教育の手段、技術や方法のことである。 2 アプローチ方法により、主に「講師主体」と「生徒主体」の二つのカテゴリーに分かれる。 3 指導する講師の教育哲学によって異なることがある。 4 教室の規模・教科に依存しない、普遍的なものである。	4
7	研修サービスにおける主な学習形態「ワークショップ」に関する説明のうち、正しいものを1つ選べ。 1 講師による知識の伝達に重点を置き、主にスクール形式によって行われる形態。 2 実際の業務を前提に、技術や運用・作業などについて模擬的な環境で学ぶ形態。 3 学習やタスクの達成など、同じ目的を持った人々がグループで取り組むことにより学ぶ形態。 4 各自がワークシートに自分の考えや意見をまとめ、その根拠について考えながら学ぶ形態。	3
8	インストラクショナルデザイン (ISD) 活用に伴う「研修を行う側」への利点について、正しくないものを1つ選べ。 1 経験や勘だけで、効果的・効率的な教材や指導方法の開発が可能になる 2 主観によらない、客観的な効果測定が可能になる。 3 論理的根拠を持って、教える内容と順序を決められる。 4 学習目標が求める内容に合致したテストを作ることができる。	1
9	インストラクショナルデザイン (ISD) 活用に伴う「研修を受講する側」にとっての利点について、正しくないものを1つ選べ。 1 学習内容が構造化・体系化されることで、学びやすさが増し、効率的に学習を進めることができる。 2 カリキュラムや教材が専門性を増し、より高レベルな内容となる。 3 受講者自身がどの部分を学び、どこまで到達できているか認識することができる。 4 学習段階が明確になることで、受講者自身の学習計画が立てやすい。	2
10	「研修の設計」をADDIEモデルに当てはめた時、①分析、②設計、③開発より後の工程として、正しくないものを1つ選べ。 1 評価 2 実施 3 必要に応じた改善 4 カリキュラムデザイン	4

■第4回

講座1 研修サービスとは 第5章 1節～3節

次の文章を読み、内容が正しい場合には○、誤っている場合には×を選んでください。(正誤問題)

設問	問題文	正解
1	研修サービスにおける評価としては、アセスメントとテストの二種類が存在し、それぞれ測定する対象が異なる。	×
2	評価基準の設定時には、主な評価手法として「到達度評価」「総括的評価」「形成的評価」が使用される。	○
3	研修事業者によるフィードバックには「研修依頼主」「講師」「国・地方自治体」の三方向があり、それぞれのフィードバックの概要と目的は異なる。	×
4	講師による受講者に対する研修中の進捗把握は、言語/非言語コミュニケーションやテストや練習問題などを用いて、受講者毎に異なる評価基準で実施する。	×
5	研修目標の達成度のアセスメントは、設定された研修目標と、評価方法および評価基準に基づいて行われるが、さらに、受講者アンケートを受講者自身による理解度の確認として参考情報とすることもできる。	○

次の文章を読み、設問に答えてください。(四者択一問題)

設問	問題文 (選択肢)	正解
6	「評価 (アセスメントおよびエバリュエーション) の活ユーザー」と「意義・役割」の組み合わせとして、正しくないものを1つ選べ。 1 受講者 — 評価結果を進学や就職のための基礎データの一部とする。 2 研修実施機関 — 今後の学習計画立案の資料とする。 3 ステークホルダー — 社員の受講状況や到達度を把握する。 4 ステークホルダー — 学習集団の傾向や状況を把握する。	4
7	講座評価の設計に関する次の項目のうち、「受講者アンケートの活用」と同じタイミングで行われるものとして設計されるものはどれか、正しいものを1つ選べ。 1 受講者の到達度評価などの実施。 2 フィードバックされた評価結果を分析し、講座を改善。 3 受講者の到達度評価や研修の視察などによる講師評価。 4 受講者の到達度評価などについての評価手順および評価方法を設計に組み込む。	1
8	講座評価の関係者へのフィードバックに関する次の説明のうち、正しくないものを1つ選べ。 1 研修依頼主 (企業等) へは、研修を継続してもらうための情報提供という意味合いになる。 2 講師には、講師の成績表のような意味合いとなる。 3 カリキュラム設計・開発担当者へは、講座の改善点を見出すためにフィードバックする。 4 講師には、カリキュラム設計に対するクレームという意味合いになる。	4
9	研修目標の達成度のアセスメント (評価) 実施前に、講師が確認しておかなければいけないものとして正しくないものを1つ選べ。 1 設定されていた研修目標。 2 受講者たちのスキルレベル。 3 評価基準。 4 評価方法	2
10	「追加支援の提案」や「経過期間を置いた評価」などのアセスメント後の支援に関する次の説明のうち、正しいものを1つ選べ。 1 事前に準備した計画だけでは対応できない場合でも、基本的には追加支援は提案することはできない。 2 研修後では遅いので、研修内容の有用性と妥当性を検証するための受講者アンケートを、研修期間中に実施する。 3 研修を計画どおりに進められなかった場合、参考図書や通信教育などの追加リソースを提案することで受講者の研修目標達成を支援する。 4 研修内容の実務への有効性に関しては、企業の業務内容に触れてしまうため、評価することはできない。	3

■第5回

講座1 研修サービスとは 第5章 4節～5節

次の文章を読み、内容が正しい場合には○、誤っている場合には×を選んでください。(正誤問題)

設問	問題文	正解
1	次回研修実施時の改善・振り返りのためには、講師を評価する際のポイントである「事前準備」「教授法」「パーソナリティ」を必ず振り返る必要がある。	○
2	研修サービス関係者に対する情報提供（フィードバック）の3形態は、受講者・企業・その他の利害関係者への相互フィードバック3種類である。	×
3	受講者および利害関係者に対するフィードバックは、「研修開始前」「研修中」「研修終了直後」「一定期間経過後」のそれぞれにおいて行う。	×
4	研修サービスをはじめから正しく設計し、実施することは容易ではないが、「改善を行う際の6つのポイント」などの観点を参考にし、繰り返し改善を行うことで質の向上を図ることは可能である。	○
5	適切な講座の見直し・改善を行うための評価の観点としては、研修時間、研修範囲、研修目的、研修内容のレベル等が挙げられる。	○

次の文章を読み、設問に答えてください。(四者択一問題)

設問	問題文（選択肢）	正解
6	受講者アンケートに関する次の説明のうち、正しいものを1つ選べ。 1 受講者自身による理解度の確認には有用だが、研修全体への評価の確認はできない。 2 他の受講者からの学習上の刺激や影響などの確認はできない。 3 講師が自己評価し、教材や学習環境の改善点を把握することができる。 4 研修実施前や研修期間の途中におけるアンケート実施は、研修の見直しや改善に役立つ。	3
7	関係者に対する研修結果の活用において、「講師の能力、研修プログラムの改善・質の向上」に活かせる情報として、正しくないものを1つ選べ。 1 受講者の成績や取り組み状況 2 受講者からの感想 3 学習集団の様態 4 受講者が属する企業／組織の業績	4
8	受講者および利害関係者に対するフィードバックについて、その実施タイミングと対象の組み合わせとして、正しいものを1つ選べ。 1 研修中に、受講者および利害関係者から研修事業者へ、将来の研修に対する傾向の把握としたアンケートの回答を提供する。 2 研修終了直後に、受講者および利害関係者から研修事業者へ、要望・改善要求・費用対効果を把握するためのヒアリングの回答を提供する。 3 一定期間経過後に、受講者及び利害関係者から研修事業者へ、学習方法の変更に關するアンケートの回答を提供する。 4 研修中に、研修事業者から利害関係者へ、研修計画の見直しに関する情報を提供する	2
9	アンケート実施・改修時の留意点における次の説明のうち、正しくないものを1つ選べ。 1 アンケートの実施期間を十分にゆとりを持って設定するために、対象者への負担（回答時間や返送料など）よりも、回収形式（郵送、Web、メール等）を重視する。 2 協力した個人や企業に対しては、あらかじめアンケートの使い道や協力者に対する回答や謝礼について明示しておく。 3 アンケート対象者に対して事前にアンケートの趣旨や実施者（名称や連絡先などを含む）、回答の任意性などを明示し、慎重に協力を仰ぐ。 4 得られた個人情報の取扱いについては十分に配慮する。	1
10	アセスメントを分析する際の手順を次の4つに分けた場合、3番目に行うものとして正しいものを1つ選べ。 1 課題や問題点の抽出、効果や利点等についてまとめる。 2 前工程の結果をもとに、客観的で中立的な視点から検討を行う。 3 目的に応じて科学的な理論や統計方法を選択し、データの分析をする。 4 収集したデータを整理する。	2

■第6回

講座2 研修講師の役割 第1章～第2章

次の文章を読み、内容が正しい場合には○、誤っている場合には×を選んでください。(正誤問題)

設問	問題文	正解
1	カリキュラム設計・開発担当者の主な役割として、「カリキュラム開発手法・教育方法・教材作成方法の研究及び開発実装」、「評価手法の研究及び評価結果の分析」、「改善活動」の3つが挙げられる。	○
2	講師の主な役割として「教材および教育手法の研究」、「研修の実施」、「受講者への対応」、「評価と評価報告書の作成」、「研修終了後の振り返りおよび改善活動」の5つが挙げられる。	○
3	講師の業務範囲は、研修の流れに沿って「実施前」「冒頭」「中間時」「終了時」「一定時間経過後」の5つの流れに分類される。	×
4	講義・実習の実施冒頭部分において、講師は受講者の理解度向上のための取組を行い、中間時は、受講者との信頼関係構築のためのポイントに留意して進めることが望ましい。	×
5	講師は、講座・実習の終了時に「講座の復習」や「受講者のアセスメント」を行うことで、学習の強化や課題の修正につなげることができる。	○

次の文章を読み、設問に答えてください。(四者択一問題)

設問	問題文 (選択肢)	正解
6	講師とカリキュラム設計・開発担当者の役割を明確に分担している事業者において、それぞれの役割に関する説明のうち、正しくないものを1つ選べ。 1 講師の主な役割の1つとして、評価手法の研究及び「評価結果の分析」がある。 2 講師もカリキュラム設計・開発担当者も、主な役割の1つとして「改善活動」がある。 3 カリキュラム設計・開発担当者の主な役割として、「受講者への対応」は基本的には含まれていない。 4 講師の主な役割の1つとして、「教材および教育手法の研究」がある。	1
7	講師の役割である「研修(座学・実習等)の実施」は、誰の目的を達成するものか、次のうちから正しくないものを1つ選べ。 1 受講者 2 経費支弁者／研修参加依頼者 3 研修事業者 4 スポンサー	3
8	講義・実習等の実施前に用意するべき「研修プラン」と「研修に必要なもの」に関する次の説明のうち、正しいものを1つ選べ。 1 「研修プラン」には、「研修目的」や「研修中に使用される手順・設備」などは含まれない。 2 「研修に必要なもの」は、実習で用いる材料などの研修資材のことだけであり、テキストなどは含まれない。 3 「研修プラン」には、受講者が事前／事後に行う学習の準備も含まれる。 4 「研修に必要なもの」は、研修実施に必要な「機器」も含まれるが、実際に動作するかどうかの確認までは含まれない。	3
9	講師は講義・実習の組立てと進行を行う上で、研修を論理的に構成して、研修における主要なポイントがどのような関係になっているかを示す必要がある。主要ポイントの関係性の整理に関する次の説明のうち、正しくないものを1つ選べ。 1 時系列に従って、過去から現在へ。 2 難易度に従って、単純なものから複雑なものへ。 3 将来性に従って、未知から既知へ。 4 使用頻度の高いものから低いものへ。	3
10	「講義・実習等の終了時」に関する次の説明のうち、講師の業務として正しくないものを1つ選べ。 1 講座の重要な部分を復習する。 2 記憶を定着させるために、受講生の学習を強化する。 3 講座の全体を要約する。 4 講座内で触れられなかった新たな考え方を提示し、刺激を与える。	4

■第7回

講座2 研修講師の役割 第3章

次の文章を読み、内容が正しい場合には○、誤っている場合には×を選んでください。(正誤問題)

設問	問題文	正解
1	講師に求められるコンピテンス（業務遂行能力）には、「人間力」、「登壇能力」、「開発能力」がある。	×
2	講師は、「コミュニケーション力」「クリティカルシンキング」「エフェクティブ・ライティング」「問題解決力」「指導力」「許容力」の7つを、「人間力」として備える必要がある。	×
3	講師に求められるコンピテンスとしての「登壇能力」とは、「プレゼンテーション能力（説明する力）」「インストラクション能力（指導力）」「ファシリテーション能力」である。	○
4	講師に求められるコンピテンスとしての「評価者能力」とは、評価者としてふるまうことができる能力を指し、評価能力そのものは含まれない。	×
5	講師がコミュニケーションの発信者である場合、「言葉の選定と使用」、「考えを伝える際の明確な態度」、「正確で最新の情報」の3点に注意する必要がある。	○

次の文章を読み、設問に答えてください。(四者択一問題)

設問	問題文（選択肢）	正解
6	「人間力：クリティカルシンキング」に関する次の説明として、正しくないものを1つ選べ。 1 批判的な立場から、明確かつ合理的に考える能力のこと。 2 推論する能力が要求されるため、受動的に情報を受け取る必要がある。 3 ものごとの論理的なつながりを理解する必要がある。 4 疑問を抱き、分析し、評価することを通して、能動的に学習することが必要となる。	2
7	「人間力：エフェクティブ・ライティング」に関する次の説明として、正しいものを1つ選べ。 1 より抽象的にする。 2 簡単な言葉を使う。 3 強調のための繰り返しを多用する。 4 情報量を増やすために長い文章とする。	2
8	「人間力：問題解決力・誠実さ・許容力」に関する次の説明として、正しくないものを1つ選べ。 1 受講者の多様な意見や価値観、また、欠点や問題も含め、受講者をありのままに受け入れること。 2 誠実さとは、飾ったり、とりつくろったりせず、うそやごまかしのない態度のこと。 3 研修自体の課題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、改善するための方策を立て実行する力のこと。 4 講師自身の知識不足をカバーするために、受講者から専門外の質問がきた場合も、あいまいながらもその場で即回答をすること。	4
9	「登壇能力：プレゼンテーション能力」に関する次の説明のうち、効果的なポイントとして正しいものを1つ選べ。 1 非言語コミュニケーションを多用しない様に心掛ける。 2 速度や声のトーンは、抑揚などを付けず、常に一定を保つ様心掛ける。 3 リラックスせず、常に緊張感を持っている。 4 開始が重要であることを意識する。	4
10	講師に求められる「評価者能力」に関する次の説明のうち、正しくないものを1つ選べ。 1 座学に対する評価は、知識・スキルを評価する際に試験が最適であることから、適切な試験問題を作成することに留意する。 2 実習に対する評価は、評価すべき項目に合わせて適切な評価方法を選択することが重要である。 3 ワークショップに対する評価は、評価結果があいまいになりがちなので、定性的な評価項目は用いるべきではない。 4 評価能力とは、評価手順・方法を設計・作成し、受講者の理解と進捗状況の評価する能力に加え、受講者の成績の測定・割り当て、評価結果を説明する能力のことである。	3

■第8回

講座3 研修の実践 第1章～第2章

次の文章を読み、内容が正しい場合には○、誤っている場合には×を選んでください。(正誤問題)

設問	問題文	正解
1	研修の進め方は「研修実施前の準備」「研修冒頭の流れ」「研修中間時の流れ」「研修終了の流れ」という4つのステップに分類される。	○
2	講義・実習実施前における準備・確認事項としての「目標」には、「コースの到達目標」と「実施講座の目標」がある。	○
3	講義・実習実施前における準備・確認事項として、機器や設備の故障を含む「トラブルに対する対応手順の確認」は含まれていない。	×
4	緊急時・保安維持のための学習者対応として、「災害時の対応」「傷病者発生時の対応」「安全衛生管理」を検討しておく。	○
5	労働衛生の3管理とは「作業環境管理」「作業管理」「健康管理」とされており、中でも「作業環境管理」に注力することが求められている。	×

次の文章を読み、設問に答えてください。(四者択一問題)

設問	問題文 (選択肢)	正解
6	「コースの到達目標」と「実施講座の目標」に関する次の説明のうち、正しいものを1つ選べ。 1 目的とは、目標を達成するために設けたためあてのことである。 2 コースの到達目標とは、実施講座の目標に比べて具体的ではなく、抽象的かつ長期的なものである。 3 実施講座の目標とは、目指す地点・数値・数量などではなく、内容に重点を置くべきである。 4 目標とは、成し遂げようと目指す事柄のことであり、行為の目指すところである。	2
7	講座の到達目標は、4つの学習領域を考慮して設定されている。次のうちから、その領域に含まれないものを1つ選べ。 1 知識を対象とする、認知領域。 2 教材や機材の操作を対象とする、操作領域。 3 感覚や感情を対象とする、感情領域。 4 態度や行動を対象とする、対人関係領域。	2
8	受講者の「レディネス」に関する次の説明のうち、正しくないものを1つ選べ。 1 レディネスの有無によって、学習の効果は左右される。 2 事前テストの実施により、受講者のレディネスを確認することができる。 3 アンケートやヒアリングでは、レディネスを確認することはできない。 4 オープニングの情報交換などを通じて、受講者の要望等を聞くことも、レディネスの確認に繋がる。	3
9	教室環境の確認と事前準備に関する次の記述のうち、正しくないものを1つ選べ。 1 会場の縦横比は、幅1に対して奥行き1.5が理想である。 2 スクリーンは、少なくとも床から約1メートル以上高い位置に投影されるように設置する。 3 受講者の座席配置は、内容によってスクール形式や島形式などの適した配置を選ぶ。 4 スクリーンは、受講者全員が見えやすい位置(会場の正面・部屋の角など)に設置する。	1
10	ワークショップのグループ編成に関する次の説明のうち、正しいものを1つ選べ。 1 平均化グループは、各階層ならでは課題解決が可能になることが多い。 2 平均化グループは、類似した価値観での判断が多くなる傾向にある。 3 様々な立場・視点からのアイデアが生まれやすくするためには、同属別グループが適している。 4 平均化グループは、開始時に、意見を出しやすい場作りを心掛ける必要がある。	4

■第9回

講座3 研修の実践 第3章

次の文章を読み、内容が正しい場合には○、誤っている場合には×を選んでください。(正誤問題)

設問	問題文	正解
1	講義・実習の導入部分では、挨拶と自己紹介を行い、「施設・設備、実習機器利用上の留意事項」を説明する。続いて、スケジュール、評価方法や修了要件を案内する。	○
2	講義・実習も、ワークショップも、導入部分で学習目標や到達レベルを説明することにより、受講者に対し動機づけを行うことができる。	○
3	講義・実習における場づくりのポイントは、「信頼感の醸成」「講座内容に対する講師の自信と習熟度の説明」「スタート時の明るく前向きな雰囲気づくり」にある。	○
4	ワークショップの導入部分では、講義・実習の流れとは異なり、講師の挨拶と自己紹介を終えたら速やかに内容に入ることが重要である。	×
5	ワークショップにおける場づくりのポイントは、「グループメンバー間での信頼感の醸成」「ワークショップに取り組む雰囲気づくり」である。	○

次の文章を読み、設問に答えてください。(四者択一問題)

設問	問題文 (選択肢)	正解
6	「講義・実習に取り組む意欲を向上させる」ために行う、受講者の動機づけに関する次の説明のうち、正しいものを1つ選べ。 1 研修目的と研修目標は抽象的な表現になりがちなので、受講者へ不安を与えてしまわないよう、端的に伝える。 2 受講者によって受け取り方が異なるので、過去の受講者の様子や発言を持ち出さずに説明する。 3 開始時のオリエンテーションでは、受講者のニーズを考慮するために、研修目的や研修目標を一人一人述べてもらう。 4 受講者から研修に対する期待を聞き取るなど、コミュニケーションを図ることは、受講者のモチベーションをアップさせることに繋がる。	4
7	講義・実習における講師の、「受講者からの信頼感を得るためのポイント」に関する次の説明のうち、正しくないものを1つ選べ。 1 質問への対応時間を設ける。 2 意見の発信そのものを肯定する。 3 要望にできる限り応える。 4 問題点を厳格に批判し、追求する。	4
8	ワークショップの導入・案内時の流れに関する次の説明のうち、正しくないものを1つ選べ。 1 講師の経歴について述べることは研修内容と直接関係無い情報を含むため、効果的ではない。 2 講師としての経験年数を紹介することは、信頼感を損ねる可能性があるため避けるべきである。 3 まず第一に、研修内容を受講者にわかりやすく伝えることを考える必要がある。 4 講師は、自信と余裕を持って研修に臨む必要があるため、自信がないパートは時間を掛けずに終わることを心掛ける。	3
9	教室環境の確認と事前準備に関する次の記述のうち、正しくないものを1つ選べ。 1 過去の受講者の様子や発言を交えながら、内容や進め方を説明することで、受講者に興味を持たせることができる。 2 受講者同士の意見交換や情報交換よりも、講師からの情報で学ぶことに重きが置かれる。 3 グループごとに、受講者相互での自己紹介の時間を設けることが望ましい。 4 講義・実習時以上に、受講者相互での挨拶と自己紹介が重要となる。	2
10	ワークショップの「場づくりのポイント」に関する次の説明のうち、正しくないものを1つ選べ。 1 受講者は研修参加による緊張感が高まっているため、グループ外のメンバーと交流しないように促す。 2 ルール(ワークショップに臨む姿勢)を提示し、安心安全な時間と場所であることを納得させる。 3 オリエンテーションを通して、受講者をリラックスさせる。 4 ワークショップに臨む姿勢として、「他の受講者の意見を頭ごなしに否定しない」などが挙げられる。	1

■第10回

講座3 研修の実践 第4章

次の文章を読み、内容が正しい場合には○、誤っている場合には×を選んでください。(正誤問題)

設問	問題文	正解
1	研修を円滑に進めるために講義・実習において講師が留意すべき点として、身だしなみや姿勢、ジェスチャーの使い方といった受講者に聴かせる配慮や視線の配り方などが挙げられる。	○
2	スクリーンやホワイトボード等、教授に用いる道具を使用する際は、講師の使い勝手を最も重視する。	×
3	ワークショップの際、講師はエキスパートの立場として専門知識を教授することに努め、併せて「ワークショップの際の姿勢」「視線の配り方」「受講者に聴かせる配慮」に特に意識する必要がある。	×
4	演習・実習への対応にあたっては、「明確さ」、「グループの活性化促進」、「課題（制作物等）の確認と助言」、「演習・実習時の情報提供」に留意する。	○
5	質疑応答の際は、ワークショップの目的（到達目標）を常に意識した上で、受講者が回答・発言しやすい効果的な質問を心がけ、「即答できない場合の対応」や「受講者満足度の確認」といった点に留意する。	○

次の文章を読み、設問に答えてください。(四者択一問題)

設問	問題文（選択肢）	正解
6	講義・実習時におけるトラブル対応に関する次の説明のうち、正しくないものを1つ選べ。 1 欠席、遅刻、早退、いねむり、目的外のインターネット利用などによる講義への集中力低下等による「修了が見込めない可能性」がある受講者に対しては、後日文書にて注意をする。 2 研修において受講者の行動に問題があった場合、契約書に示された内容により対応を行う。 3 天災発生時の避難について、講師は事前に把握しておいた対応策・避難経路に従い、行動する。 4 受講者が実習に参加せず、研修と関係のない作業を行っている場合には、強制的に参加させるのではなく、受講者に参加を勧める。	1
7	ワークショップにおける、「講師（ファシリテーター）に求められる態度・意識」に関する次の説明のうち、正しくないものを1つ選べ。 1 各グループが議論を進めているテーブルを巡回する際は、受講者とアイコンタクトを取りながら視線を配ることで、受講者のモチベーション向上につなげる事ができる。 2 講師は受講者の会話に絶えず注意を払い、ワークショップ内容とは無関係な雑談等においても、介入が可能なタイミングでは積極的に介入し、信頼を得る必要がある。 3 グループダイナミクスを活用することは、ワークショップなどの研修における受講者間の交流を促進し、研修目標を達成するための有効な手段となる。 4 ワークショップ中の受講者の会話をメモとして記録しておくことで、フィードバックを行う際に活かすことができる。	2
8	講義・実習時における、「受講者の理解度向上につながる説明技法のポイント」に関する次の説明のうち、正しいものを1つ選べ。 1 論理的思考である「演繹法」は、個々の事実から、そこに共通する性質や関係を取り出し、一般的なルールまたは原則を作成する思考法である。 2 人は一番はじめに行った一番印象深いものを覚えているため、研修のアイスブレイクは、研修内容に関わらず最もインパクトのあるものにする必要がある。 3 講師は、研修中に教えた概念を受講者に身近に感じてもらうために、受講者の業務と異なる一般業務を身近な事例として示すと良い。 4 講師が講義・実習を行う際には、ユーモアを交えるなど、発問や問いかけの方法を工夫し、受講者の興味関心を高めることも必要である。	4
9	「受講者の理解促進支援のための回答方式と説明」に関する次の組み合わせについて、正しいものを1つ選べ。 1 プーメラン方式 - 質問に対し逆質問をすることで受講者の能動的な思考を促す方式。 2 即答方式 - 後で適切なタイミングで答える方式。 3 調査回答方式 - 講師は答えず、他の受講者に答えてもらう方式。 4 後回し方式 - 調査結果を踏まえて回答する方式。	1
10	ワークショップにおける、「受講者が発言しやすい効果的な質問の特徴」に関する次の説明のうち、正しくないものを1つ選べ。 1 明確な目的を持ち、明確な答えを要求していること。 2 1つの限定的な考えでなく、複数の考えに拡がっていること。 3 思考を刺激する内容であること。 4 以前に学習した内容と関係していること。	2

■第11回

講座3 研修の実践 第5章

次の文章を読み、内容が正しい場合には○、誤っている場合には×を選んでください。(正誤問題)

設問	問題文	正解
1	講義・実習における全体のまとめのポイントは「受講後の納得感を高める方策の実施」である。	○
2	講義・実習終了時には、「アンケート」「確認テスト」「実技テスト」など実施に関する留意点を伝え、修了するための要件がある場合はその旨を案内する。	○
3	ワークショップ終了時には、「成果発表」のみが修了するための要件であり、必ず実施しなければならない。	×
4	ワークショップにおける知識・スキルの定着への意識づけの具体的な方法として「今後の活用への動機づけ」「学習継続への誘導」「学習支援策の案内」が挙げられる。	○
5	講座の履修条件を満たした受講者に対しては、修了証を発行し、修了者としての証を与えることが望ましい。	○

次の文章を読み、設問に答えてください。(四者択一問題)

設問	問題文 (選択肢)	正解
6	講義・実習において、「受講者自身が”納得した”という実感を得るタイミングをつくること」に関する説明のうち、正しくないものを1つ選べ。 1 節目ごとにおける研修概要を掲示する。 2 重要ポイントを再確認する。 3 章の要約を行う。 4 アンケートを実施する。	4
7	講義・実習において、終了時に実施するアンケートに関する次の説明のうち、正しいものを1つ選べ。 1 PCを利用したアンケート調査は、分析が容易に行えるが、集計には不向きである。 2 スマートフォンを利用したアンケート調査は、集計は容易に行えるが、分析には不向きである。 3 回収したデータは、個人情報を含む機密情報となるので、取り扱いに注意する。 4 自己評価を実施する場合には、匿名式とする。	3
8	ワークショップ終了時、「全体のまとめ」に関する次の説明のうち、正しくないものを1つ選べ。 1 ワークショップの課題に対して、「個人としてどのような成果が上げられたのか」を振り返る。 2 受講者各自が自己評価をすることにより、目標到達度を評価する。 3 講師（ファシリテーター）の総評を述べる。 4 ワークショップの「目的」と「提示された課題（テーマ）」との関係を理解するステップが必要となる。	1
9	ワークショップ終了時、「終了時の案内での留意点」に関する次の説明のうち、正しくないものを1つ選べ。 1 事後課題やレポートの提出などを義務づけることで、学習内容の定着化を図ることができる。 2 研修を修了するための要件がある場合には、研修の終了時に改めて受講者に伝える。 3 終了時の成果発表において、講師による評価やコメントは受講者の満足度には影響しない。 4 終了時の成果発表において、成績発表の目的を明確化して実施することが重要。	3
10	研修受講者に対して発行される「修了証」に関する次の説明のうち、正しいものを1つ選べ。 1 受講者は第三者に対して、該当する研修を修了したことを証明することができる。 2 修了者氏名は記載されるが、個人情報である生年月日は記載されない。 3 研修講座名称／研修概要の等の詳細は記載されない。 4 修了証の管理番号は、研修実施機関だけが使用するものなので、記載されない。	1

■第12回

講座4 研修に必要な知識と・理論 第1章～第2章

次の文章を読み、内容が正しい場合には○、誤っている場合には×を選んでください。(正誤問題)

設問	問題文	正解
1	研修の評価では、研修目標に対してどの程度到達しているのかという判断基準を作る必要があり、一般的にルーブリックが使用されている。	○
2	eラーニングの主な特長は、「新しい日常への対応」「選択の多様性」「エンターテインメント性」の3点である。	×
3	eラーニング活用の種類として「研修施設での学習」「職場のPCでの学習」「自宅のPCでの学習」「スキマ時間での学習」が挙げられる。	○
4	一般的なeラーニング導入においては、「設計」「開発」「品質チェック」「運用」の各プロセスがある。	○
5	LMSには大きく分けて「学習教材の配信」と「学習教材の作成」という機能がある。	×

次の文章を読み、設問に答えてください。(四者択一問題)

設問	問題文 (選択肢)	正解
6	学習理論における2つの基本概念、「行動主義」と「認知論」に関する次の説明のうち、正しくないものを1つ選べ。 1 認知論では、行動主義における「刺激とその反応」よりも、思考や学習の過程である「認識」を重要視している。 2 行動主義では、「講師に強化してもらうこと」が重要であるとしている。 3 認知論の立場では、「学習は、行動の変容だけでなく、受講者の考え方などにも変化を与えるものである」としている。 4 研修を計画、管理、実施する際は、「行動主義」または「認知論」どちらか1つを取り入れることが有益である。	4
7	LMSが提供するeラーニングの構成要素は、大きく分けて4つある。次のうち、正しくないものを1つ選べ。 1 複数人が同時接続可能なWeb会議ツール 2 受講者とのコミュニケーションツール 3 コンテンツ 4 受講管理	1
8	「eラーニング教材開発：品質チェック」に関する次の説明のうち、正しくないものを1つ選べ。 1 学習のまとめと振り返りが適切に設けられているか。 2 理解度の確認等、評価の仕組みが適切か。 3 可能な限り多くの情報量を盛り込んでいるか。 4 音声/ナレーションに間違いがないか。	3
9	「eラーニング教材開発：設計プロセス」に関する次の説明のうち、正しいものを1つ選べ。 1 動画型の教材においては、ひとつの動画は5分程度におさめる(3分以内推奨)。 2 資料と講師映像を合成した「講師映像」は、ナビゲート役にもなるため、動画教材全編に登場させる。 3 単元ごとに、「理解度テスト」「〇×クイズ」「ミニテスト」の全テストを毎回実施することで、多角的に理解度を確認することができる。 4 スライド解説型教材においては、ひとつの学習項目(項)は10分程度におさめる(5分以内推奨)。	4
10	eラーニング活用のために「組織として取り組まなければならないこと」に関する次の説明のうち、正しいものを1つ選べ。 1 部下の学習状況まではマネージャーが管理する必要はない。 2 eラーニングでの学習を能力評価につなげる仕組みとする。 3 就業時間内での学習を許可しない。 4 物理的学習環境は、個々人の好みの環境に合わせる。	2

■第13回

講座4 研修に必要な知識と・理論 第3章～第4章

次の文章を読み、内容が正しい場合には○、誤っている場合には×を選んでください。(正誤問題)

設問	問題文	正解
1	モニタリングは、実施前に範囲だけを明確に設定し、方法には「観察」「研修中の対話」「理解度テスト等の実施」「アンケート・ヒアリング調査」などがある。	×
2	モニタリングの実施により課題を把握した場合は、原因・課題などを客観的・具体的に記録することが重要である。	○
3	モニタリングの過程で苦情やクレームが寄せられた場合、苦情やクレームの中には、研修事業者側の努力で解決できるものとできないものが混在しているので、研修事業者側だけの判断で勝手に改善を行うことはない。	○
4	アメリカでは、EdTech を活用した STEM/STEAM 教育が推進されている。	○
5	「AI/IT 人材」とは、デジタルトランスフォーメーションを行う技術を持つ人を意味する。	×

次の文章を読み、設問に答えてください。(四者択一問題)

設問	問題文 (選択肢)	正解
6	研修サービスにおけるモニタリングに関する次の説明のうち、正しくないものを1つ選べ。 1 受講者の理解度や目標到達度について、一定期間継続的に観察・確認し、把握すること。 2 測定可能で現実的な指標の設定が不可欠である。 3 講師が受講者のふるまい等を確認することを「広義のモニタリング」という。 4 実施中の研修サービスの課題を顕在化させ、改善に必要な判断につなげることができる。	3
7	「モニタリング：研修の観察」に関する次の説明のうち、正しくないものを1つ選べ。 1 計画どおりに研修が進行されているかを確認する。 2 学習内容と時間配分、課題の有効性、評価方法、環境などの各要素が十分に機能しているかを確認する。 3 講師の教授法やふるまいは確認するが、受講者の反応や動向は確認しない。 4 必要な学習支援活動が実施されているかを確認する。	3
8	受講者支援および苦情対応に関する次の説明のうち、正しいものを1つ選べ。 1 受講者の支援に関し、モニタリングの結果をフィードバックとして共有することは効果的では無い。 2 研修事業者側だけでは解決できない問題（クレーム等）の場合には、関係機関等と連携・相談し、解決に至る道筋をつけることから始める。 3 苦情やクレーム等があった場合は、概要や対応状況を主観的に記録して残しておく。 4 研修事業者側の努力で解決できる苦情やクレームの場合には、スポンサーの満足度を高めることを最優先として、改善に努める。	2
9	「生涯にわたって教育と就労のサイクルを繰り返す教育制度」という説明が当てはまるのは、次のうちどれか。 1 IT リテラシー教育 2 リカレント教育 3 アクティブ・ラーニング 4 STEM/STEAM 教育	2
10	「教員による一方向的な講義形式の教育とは異なり、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法の総称」という説明が当てはまるのは、次のうちどれか。 1 アクティブ・ラーニング 2 リカレント教育 3 STEM/STEAM 教育 4 IT リテラシー教育	1